

令和3年度第3回ISO上層委員会報告会

第116回 ISO理事会 報告



一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット
中川 梓

ISO Council (理事会)

◆ ISO理事会とは

- ISOの中心となる統括組織
- 構成：ISOメンバー機関代表20名、ISO役員、政策開発委員会議長 (CASCO、COPOLCO、DEVCO)
- 議長：ISO会長または副会長(政策)
- 年3回の会合
- 財務監事、TMBメンバー、政策委員会議長の指名

◆ 理事会メンバー機関

グループ1

AFNOR(仏)(2023)
ANSI (米)(2023)
BSI(英) (2022)
DIN(独) (2023)
JISC(日)(2022)
SAC(中) (2022)

グループ2

ABNT(ブラジル) (2021)
KATS(韓) (2022)
SCC(カナダ) (2022)
UNE(スウェーデン) (2021)
NBN (ベルギー)(2023)

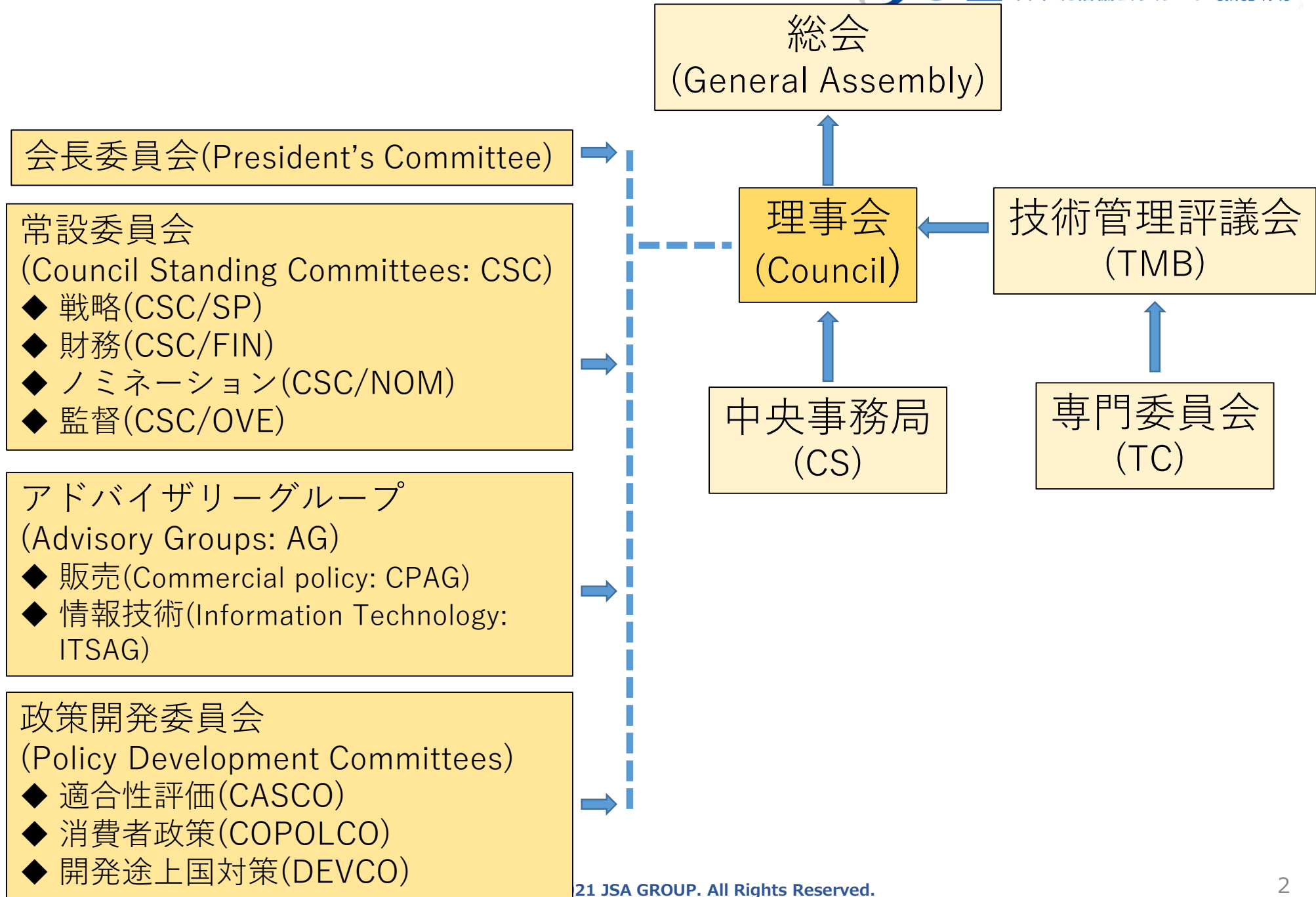
グループ3

ESMA(アラブ首) (2022)
IRAM(アルゼンチン) (2021)
SOSO(サウジアラビア) (2022)
DS(デンマーク) (2023)
SABS (南ア)(2023)

グループ4

HZN(クアチア) (2021)
INACAL(ペルー) (2022)
IBNORCA(ボリビア)(2023)
SAZ(ジンバブエ)(2023)

ISO Council (理事会)



第116回 ISO理事会 及び 関連会合

2021年9月2日	
12:00-14:00(日本時間：19:00-21:00)	CSC/SP
2021年9月13日	
13:00-14:30(日本時間：20:00-21:30)	CSC/NOM
2021年9月14日	
10:00-13:00(日本時間：17:00-20:00)	会長委員会
2021年9月16-17日	
13:00-15:00(日本時間：20:00-22:00)	DEVCO総会
2021年9月20-21日	
12:00-15:00(日本時間：20:00-23:00)	理事会
2021年9月22-24日	
12:00-15:00(日本時間：20:00-23:00)	総会

第115回 ISO理事会

- 理事会及び常設委員会の会議が、2021年9月20日から21日にかけて、ウェブ会議で開催された。
- 総会がロンドンで開催されることを受け、ロンドンの会場と各メンバーをつないでハイブリッドで開催
- 時間的な制約等を考慮し、議事を重要/緊急の項目に絞り（カテゴリB）、会議中は議論/確認のみとし、決議は行わず、後日電子投票を行い、正式に決議する。その他の項目(カテゴリA)は情報提供のみ、あるいは必要な場合、電子投票を行う
- 本資料では、理事会での主な議論、決議事項をご報告する

<主な報告事項>

- 気候変動—急速な広がり、ロンドン宣言
- COVID-19の影響/対応
 - TCやガバナンス活動への影響
 - ハイブリッド会議のガイダンス作成
 - ISO/CSの事業継続と財務
 - ISO 22301:2019に基づく事業継続計画（BCP）を実施。
 - CS事務所をオープン
 - 財務状況は健全（8月末で6300kCHF剰余）
- サイバーセキュリティインシデント
 - サーバー（ISOコネクト）への侵入あり
 - 即時対応、分析し、影響がないことを確認
- メンバー支援
 - コミュニケーション（月次のメールレポート、会費に関し密にモニタ）
 - 規格の無料閲覧
 - キャパシティビルディング

議題2～COVID-19の影響及び事務総長報告 その2

<主な報告事項>

- ISO戦略2030 – 実施計画／測定枠組みに関する報告
 - どこでも使われるISO規格Standards Used Everywhere
 - ISO SMARTプログラム
 - 調査報告の発行（2021年12月） - “Standards and Economic Growth” “Standards and Innovation”
 - 国際的なニーズに応えるMeeting Global needs
 - ISO Foresight Framework – Environmental Scanningによるトレンドレポート <https://www.iso.org/foresight.html>
 - 全ての声に耳を傾けるAll voice heard
 - リーダシップマネジメント開発研修（パイロット）
 - 次世代をひきつけるためのプロジェクト
- 主な活動
 - 地域グループの会合等へのウェブ参加
 - 他の国際組織との関係強化、特にIEC

議題3.1 i)~2021年Q2報告 実施計画及び測定枠組み

<背景>

- ISO戦略2030の実施計画、測定枠組みを2021年1月に承認
- 2021年実施計画には、10のプログラム及びその下に34のプロジェクト
- 測定枠組み—3つのゴール、6つの優先事項に対し、達成状況を測定するためのもの。ゴール/優先事項に対し、各2つの指標を定め、尺度、ターゲットを設定

<主な内容>

- 開始から半年たち徐々に進行。計画中、情報収集中のものも多い
- 3プロジェクトがリソース不足を理由に遅延。採用活動が進行中とのこと
- 測定枠組みも、まだデータ収集が十分ではないものが多い。また、ターゲットの設定や、データの分析等、さらに議論が必要ではないか

ISO Digital Learning Solutions		
ISO Onestop - LMS	ISO DLS Content Plan	ISO DLS Toolkit
ISO SMART		
Use cases	Business model	Technical solutions
Digital Collaboration		
Accelerate virtual standard development process(VSDP)	Virtual and hybrid Governance meetings	Virtual and hybrid ISO/CS led events
Online Standard Development		
New APIs / Data Connect		
Identities and roles	New API: Ballots	New API: Meetings
Improved Development Processes		
Optimize deliverables	Committee strategy management	Change the perception, ISO can be fast (when needed)
Standards Users' Needs		
User's needs policy and strategy	User's needs integration	

実施計画～10プログラム／34プロジェクト

Future Challenges and Market Needs		
Foresight framework implementation	System approach	
Diversity and Inclusion		
ISO Gender Action Plan)	Next Gender Action Plan	ISO Young Professional Programme
Evaluation of the stakeholder category	ISO/CS action plan	Action Plan for Developing Countries
LMD programme	Accessibility action plan	
Capacity Building Funding		
Funding policy	Enhance data collection	
Benefits of Standards		
Macro-economic benefits of standards methodology	Summary of members' research on the economic benefits of standards	Research review – impacts of standards
ISO Research Grant 2021 – standards supporting SDGs	Data divulgation	

ゴール1：どこでも使われるISO規格	
1年間のISO規格類の販売数と国家採用数	ISO.orgへの訪問数
優先事項1.1：ISO規格の便益を実証する	
規格の便益に関する資料を備えたオンライン参照ライブラリがあるか	会員が利用できる規格の便益に関する資料の数
優先事項1.2：使用者のニーズを満たすためにイノベーションを行う	
ユーザーの経験に関する情報を会員から収集するメカニズムを作成	ISO会員及びISO/CSによって実施されているユーザーが関与しているプロジェクトの数
ゴール2：国際的なニーズに応える	
発行済ISO規格類の開発期間の平均値及び中央値	新しいTC、PC、又は業務項目の提案を提出している国の数
優先事項2.1：ISO規格を市場が必要とするときに提供する	
規範的な非IS規格類（TS、PAS、IWA）の年間発行数のISに対する比率	選択した期間内に開発された規格類の割合

優先事項2.2：今後の国際標準化の機会を捉える	
ISO/CS及びISO会員によって特定され、ISO内で回付及び評価された新規/戦略的トピックの数	戦略的/調整活動として、標準化ロードマップを開発及び実施するためのプロセスの作成
ゴール3：すべての声に耳を傾ける	
性別及び国別（途上国/先進国及び地理的地域）のガバナンス職及び委員会リーダーの人数	国別のPメンバーシップの数（地域の内訳、途上国などを含む）
優先事項3.1：能力開発を通じてISO会員を強化する	
目標を達成するAPDC成果/中間結果測定値の%	途上国によるエキスパート、Pメンバー、委員会リーダー、及びガバナンス職の数
優先事項3.2：ISOシステムにて包括性と多様性を促進する	
年齢、性別、国（途上国/先進国及び地理的地域）及び利害関係者のカテゴリー別のエキスパート数	1年あたりのバーチャル開催の委員会及びWG会議の割合（ハイブリッドを含む）

議題3.1 ii)～2021年Q2の中間リスク評価

<背景>

- リスク登録簿
 - 17のリスクを特定、Likelihood（発生可能性）、Consequence（影響度）で評価
 - 軽減策と状況を記載
- リスク管理カレンダー
 - リスクの中間評価を四半期ごと（6月、9月、11月）に行い、理事会に提出
 - 翌2月に、理事会がリスク登録簿の年次レビューを行い、承認
- Q1の中間評価（6月）を行うとともに、CSC/FINが全リスクの財務的な影響を見直し

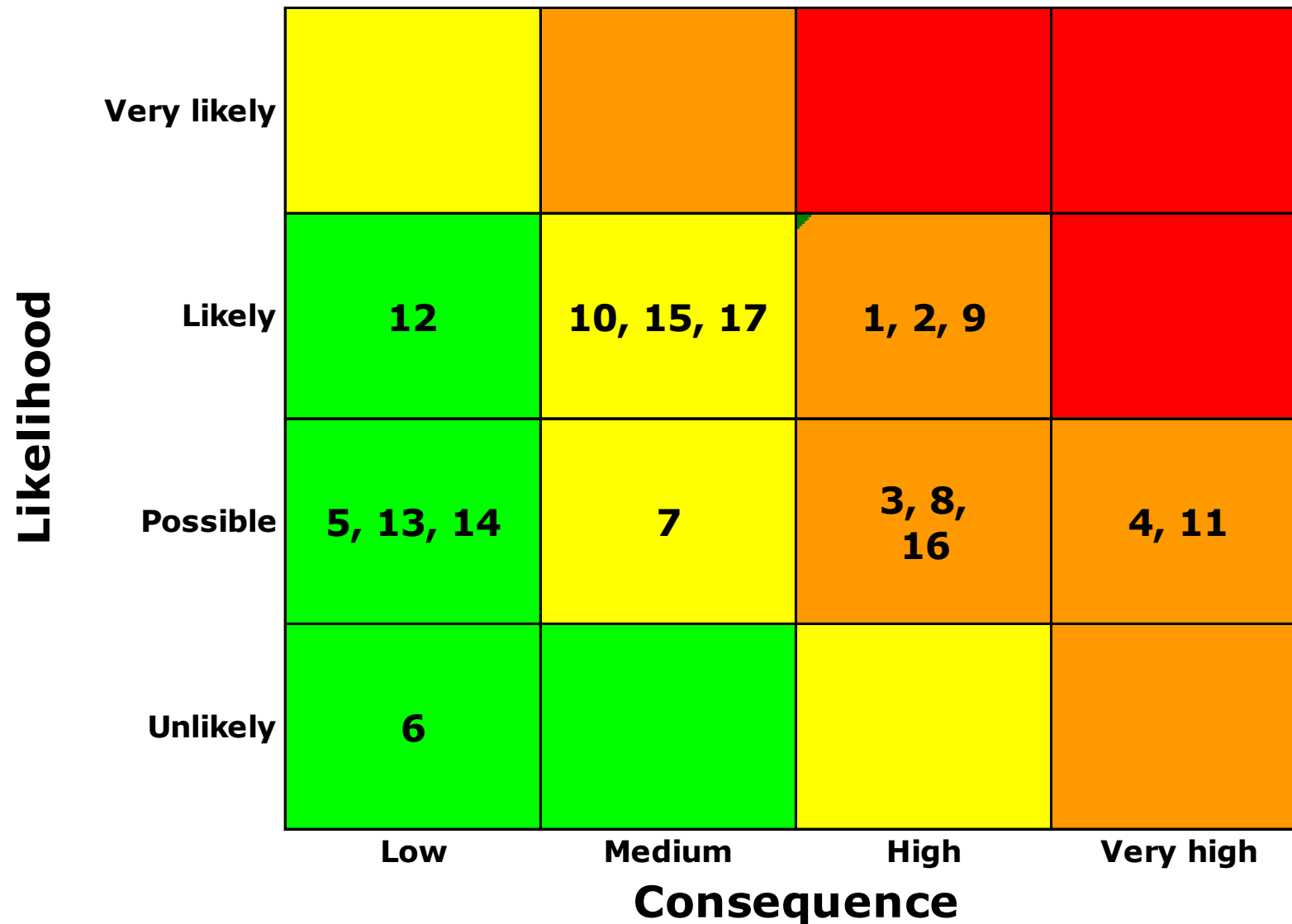
<審議内容・結果>

- リスクに対する対応策がかなり整理された(戦略的な影響の小さいものや日々の運用に関係するものを削除)
- リスクをどういう観点で評価するか（財務的にか、評判なのか）、リスク選好(risk appetite)をどう考えるか一貫していないのではないか
- CSC/SPで、リスク選好を設定し直す（11月）

		発生可能性	結果
1	特定の市場ニーズを満たせない	3	3
2	競争の激化	3	3
3	知的財産の喪失	2	3
4	専門人材の不足	2	4
5	欠陥のある規格	2	1
6	罰則及び訴訟	1	1
7	ISO資金調達でのデフォルト	2	2
8	外部団体との非効果的な協働	2	3
9	会員の団結の喪失	3	3
10	効果的でない又は誤解を招くコミュニケーション	3	2
11	外部要因によるブランドの低下	2	4
12	規制上あるいは政治上の変化	3	1
13	職員の不正行為	2	1
14	効果的でない調達及び第三者リスク（外部委託）	2	1
15	完全でない戦略展開	3	2
16	データ/情報の変更（検知/非検知）	2	3
17	重要人物及び知識の喪失	3	2

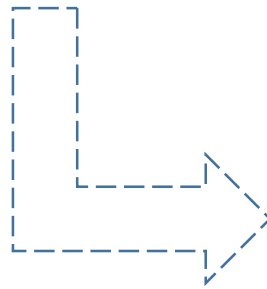
発生可能性 (likelihood):1-Unlikely 2-Possible 3-Likely 4- Very likely
 結果(consequences):1-Low 2-Medium 3-High 4- Very high

Q1の中間評価で承認されたリスクマトリックス



Very likely				
Likely	12	10, 15, 17	1, 2, 9	
Possible	5, 13, 14	7	3, 8, 16	4, 11
Unlikely	6			
	Low	Medium	High	Very high

Consequence



Likelihood

Very likely				
Likely	7	10, 12		
Possible	5, 14, 17	1, 2, 3, 4 8, 9, 11 15, 16		
Unlikely	6, 13			
	Low	Medium	High	Very high

Consequence

Consequence (影響度) を3つのカテゴリで評価

- financial (財務)
- reputational (評判)
- operational (運営)

議題3.2 i)～リーダーシップ及びマネジメント開発研修（LMD）

<背景>

- リーダーシップ及びマネジメント開発（LMD）に関するパイロットプロジェクトを実施
 - 目的：リーダーシップ能力開発、ISOの戦略やメカニズムなどの理解
 - 事前ワークショップ、ワークショップ、遠隔メンタリング等
 - 参加対象は、NSBのリーダーシップの地位にある者（CEO、標準化部門の責任者等）
- パイロットプロジェクトを成功裏に終了したので、通常プログラムとすることを提案

<審議内容・結果>

- 通常化に賛成するが、国内での教育が重要なので、研修教材を提供してほしい、国内向けに実施してほしい等の意見あり
- LMDプログラムを通常プログラムとし、3年目に見直しを行う
(決議39/2021)

議題3.2 ii)～標準化に次世代を惹きつけるためのプロジェクト

<背景>

- 標準化に若手プロフェッショナル（YP）をいかに惹きつけるかについてのプロジェクト開始（2020年9月）。2021年戦略実施計画のプロジェクトとして継続
- 各国で実施しているプログラムの間取り調査、各国関係者を招きワークショップ開催
- ウェブサイトに特設ページ、ツールキット、ISO賞、オンラインYPフォーラムを提案。最大150 kCHF（約1,800万）の支出

<審議内容・結果>

- 大学生や社会人がYPの対象となるが、社会人の参加を促すには雇用者の理解、参加によるメリットが必要。「標準化が役に立つ」ことを伝える必要あり
- 学校教育との連携が重要ではないか
- 提案を承認 (決議40/2021)

議題3.3～ISO/IEC JTC1 無償公開規格(freely available standards)

<背景>

- JTC1で開発する規格をインターネット上で無償公開。公開の対象とするか否かの基準を策定（2004年）
- ITTF（Information Technology Task Force）をISOとIECで構成し、基準への適合をレビュー。現在、約650件をITTFのウェブサイトに公開
- 基準への適合のレビューに困難。

<審議内容・結果>

- 基準とレビュープロセスが不明確であり見直す必要がある
- 規格は有償であるという原則がある一方、無償公開にも柔軟に対応すべき
- 他の規格開発機関との競合をいう側面も認識すべき
- 技術的/商業的側面からの基準の検討を行い、さらにJTC1の重要性を鑑みIECとともに戦略的な見直しを行いたい

ISO/IEC JTC1 : Information Technology 情報技術

(決議41/2021)

その他

- 事務総長(決議30/2021)
 - Mr Sergio Mujica を再任。任期：2022年7月17日～2027年7月16日

- CASCO議長（決議35/2021）
 - Mr Reinaldo Balbino Figueiredoを再任（2022-2023年）

- 特別顧問（決議43/2021）
 - 現会長、Mr Eddy Njoroge を特別顧問（2022-2023年）に任命
 - 発展途上国の参加を強化するためのキャパシティビルディング活動への資金提供の多様性と持続可能性を推進するイニシアチブを提案

- 財務監事（決議44/2021）
 - Ms Jacqueline Curzonを指名。任期：2022年1月1日～2024年12月31日

ご参考～今後の予定

<理事会>

- 2022年2月23-24日 ジュネーブ
- 2022年6月9-10日 ストックホルム
- 2022年9月19日 アブダビ
- 2023年2月22-23日 ジュネーブ
- 2023年6月 日本（場所未定）

<総会>

- 2022年9月22-23日 アブダビ
- 2023年9月20-21日 未定
- 2024年9月 カルタヘナ(コロンビア)

ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ

一般財団法人日本規格協会
システム系規格開発ユニット

kokusai@jsa.or.jp